

# 沼沢湖におけるヒメマスの種苗放流効果

福島県内水面水産試験場調査部  
平成10・13年度事業報告書

## 1 部門名

水産業－内水面(増養殖)－その他魚種(内水面)  
分類コード 19-08-65000000

## 2 担当者

廣瀬 充・尾形康夫

## 3 要旨

沼沢湖は県内唯一のヒメマスを漁業権魚種とする湖である。1915年にヒメマスが移植されて以来、地元住民や沼沢湖漁業協同組合によりヒメマスの増殖事業が続けられており、その増殖は種苗放流により行われてきた。同湖における種苗放流と刺し網による漁獲量の推移からヒメマスの放流効果を検討した。

### (1) 放流量と漁獲量の推移

昭和49年から平成13年にかけての漁協によるヒメマス稚魚の放流尾数は種苗が入手出来なかった昭和51年を除き、60,000～218,600尾の範囲で推移した。同じ期間に漁協組合員が刺し網により漁獲した尾数は3,702～52,431尾であった。沼沢湖における本種の産卵主群は満3歳(放流2年後の秋)あるいは満4歳(放流3年後の秋)であり(内水試事報1980、徳井1975)、産卵後へい死する。このため漁獲の対象となるのは放流の2年後あるいは3年後と考えられる。ヒメマス放流から2年後に漁獲されると仮定すると、放流尾数に対する漁獲尾数の割合は3.8～46.9%(平均21.8%)となり、3年後に漁獲されると仮定すると3.2～66.2%(平均20.9%)となった。

### (2) 種苗放流の効果

放流尾数に対する漁獲尾数の割合は年による変動は大きいものの、平均で約20%であり、この値は十和田湖において昭和50～55年の期間に得られた値とほぼ同程度であり、沼沢湖漁協による種苗の放流効果は高く、漁業や遊漁に大きく貢献してきたものと考えられる。

## 4 その他の資料等

- (1) 渡辺謙太郎・成田宏一・長沢静雄 沼沢沼のヒメマス漁場調査 昭和55年度福島県内水面水産試験場事業報告(1980)
- (2) 徳井利信 福島県沼沢沼におけるヒメマスについて 北海道さけ・ますふ化場研究報告第29号(1975)